

平成19年度 大戸こども文化センターの管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	財団法人かわさき市民活動センター
(2) 指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
(3) 業務の範囲	大戸こども文化センターの管理運営に関すること 大戸小学校・大谷戸小学校わくわくプラザの管理運営に関すること

2 管理運営（事業執行）に対する評価

評価項目 平成19年度管理運営の状況		評価及び指導
(1) 管理業務の実施状況		
施設の運営に関する職員体制に関すること	①人的能力の充実を図るため職員の児童厚生員資格取得を進めると共に、新規採用職員は業務に関する資格取得者から選考しました。②本部の職員体制については管理係長1名、区運営担当主査を3名配置して各館との連携強化を図りました。	職員の業務に関する資格の取得を進めたこと、また本部職員の充実によりかわさき市民活動センターが管理運営している他のこども文化センターとの連携を図ったことは評価できる。職員の研修については、スケールメリットを生かし、大規模な研修を実施し、また、指定管理施設の各区、施設単位での研修も実施することにより職員のスキルアップを図っていたことは評価できる。今後もこども文化センター及びわくわくプラザの職員配置が適切に行われるよう努めること。
施設の管理運営に対するニーズ等の把握に関すること	こども文化センターにおいては運営協議会、こども会議に加え意見箱を設置して利用者からの運営に対するニーズ等の把握に努めた。わくわくプラザにおいては、こども会議・保護者懇談会に加え意見箱を設置して、保護者及びこどもから多くの要望、提案を頂く事に努めた。また利用者の来館時や、わくわくプラザではお迎え時に保護者との直接コミュニケーションを図った。	継続的に利用者や地域住民からの意見・要望等を聞きニーズの把握に努めていたことは評価できる。意見箱の活用等により積極的にニーズの把握に努めていたことは評価できる。
サービスの提供に関すること	館内会議・スタッフ会議において、利用者に対しての対応等研修を重ねてきた。利用者の意見に耳を傾け、反映できるよう対応してきた。行事等計画に際しては、曜日や時間の設定に配慮して多くの利用者が参加できるようにしてきた。わくわくプラザにおいては、柔軟な対応や安心して利用できる環境づくりに取り組んできた。	運営協議会やこども会議等を実施しサービスの提供を行っていた。また、ホームページの内容をより充実させていたことは評価できる。障害児については、障害児相談員を雇用し、必要に応じ職員の相談を行い障害児の対応を充実させていたことは評価できる。

事業の実施に関する こと	運営協議会を中心としたこども祭り、大掃除やグランドゴルフと昔あそび、3館合同で庭を利用したのディキャンプ、ボランティアによる囲碁教室・卓球教室・おやつづくり開催、映画会などこども文化センターで実施した。わくわくプラザでも、工作や手作りおやつの従来の事業に加え、合同の校外活動に取り組んだ。	運営協議会等との連携により地域のニーズに合った行事を実施したことは評価できる。また、児童の施設間交流に努めていたことは評価できる。今後も、ボランティアの活用に努めること。
個人情報の取扱いに関する こと	個人情報の取り扱いにつきましては、財団法人かわさき市民活動センター個人情報保護方針に基づき取り扱いました。例えば「名簿等はファイルに保存し施錠式の書類棚にて保管」・「情報が入っているPCは、館長及び職員のみが利用している」などです。	個人情報の取扱いについては、概ね問題なく処理されている。
施設の安全管理に関する こと	日常的な施設内の点検と安全整備を確実に実施した。事故対応については、スタッフ会議等で取り上げ、共通の理解の基、対応について徹底してきた。職員全員で清掃にあたり、明るく清潔な環境の確保に努めた。近隣にてマンションの工事があり、責任者と連絡を取り合い、こどもの安全に注意してきた。	毎日の清掃や始業時の点検を行い、安全性に努めている。また、大谷戸小学校わくわくプラザにセンサーライトを設置し、より安全性を高めていたことは評価できる。
(2) 利用状況		
①こども文化センター	延べ利用者数 23,269人 延べ団体利用数 5,419団体 (主な行事等) 野球 ディキャンプ (こども文化センター・わくわくプラザ合同行事) (特色のある行事) 英語で遊ぼう (わくわくプラザ合同行事)	地域の状況に合わせた特色ある行事の実施している。また、地域との連携を図り行事を実施していることは評価できる。行事の実施に当たっては、具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。
②わくわくプラザ	1 大谷戸小学校わくわくプラザ 登録者数 388人 延べ利用者数 17,125人 (主な行事等) ドッジボール 夏祭り (特色のある行事) 昭和記念公園見学 (わくわくプラザ合同行事) 2 大谷戸小学校わくわくプラザ 登録者数 419人 延べ利用者数 16,928人 (主な行事等) トランプ おいしいカレーを食べよう (特色のある行事) 昭和記念公園見学 (わくわくプラザ合同行事)	行事については、順調に実施されている。利用状況は具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。

評価項目		平成19年度管理運営の状況	評価及び指導
(3) 収支状況			
① 収支状況		(単位：円)	事業実施後指定管理料の残額を戻入しており指定管理料の範囲内で事業の実施を行っている。今後は収支のバランスを考慮しつつ、事業をより充実させるため適切な経費の執行を図ること。
	収入	指定管理料 59,663,665	
	支出	人件費 40,242,001	
		管理費 2,807,095	
		事務経費 1,937,847	
		その他経費 1,436,042	
		青少年事業資産取得支出 909,090	
		減価償却引当資産取得支出 40,492	
		第1回精算に伴う返納金 636,363	
		第2回精算に伴う返納金 8,084,030	
		合計 56,092,960	
	差引	3,570,705	

3 管理運営（事業執行）に対する全体的な評価

指定管理以前から委託事業者としてこども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わっていた経験を生かし、また、全市58施設の内55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、施設ごとに偏りの無いサービスの提供を行っており、区ごとのこども文化センター合同行事の実施や全市規模の行事の実施を行っていた。行事の実施についても施設ごとに特色ある行事を実施していることは評価できる。また、各施設を統括する本部職員を配置することにより、他のこども文化センターと連携を図り管理運営を行っていたことは評価できる。

55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、安定した経営を行っていたことは評価できる。

4 来年度の管理運営（事業執行）に対する指導事項等

次年度も引き続き55施設の指定管理者として安定した経営、他施設と連携した行事等スケールメリットを生かした管理運営を実施すること。事業の実施に当たっては運営協議会を始め地域と連携し、より一層地域の状況に合わせた特色ある行事の実施等を行うこと、また目標利用者数を設定する等具体的な数値目標を設定し客観的に事業の達成状況が分かるようにすること。